

学生の確保の見通し等を記載した書類

小田原短期大学

食物栄養学科

保育学科 通信教育課程

<目次>

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況	1
(1) 学生確保の見通し	1
① 定員充足の見込み	1
(ア) 食物栄養学科	
(イ) 保育学科通信教育課程	
② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	4
(ア) 人口推移並びに短期大学進学数等の状況	
(イ) 学科及び課程の設置状況及び受験者、定員充足状況	
a. 食物栄養学科	
b. 保育学科通信教育課程	
(ウ) 既設学科の実績	
a. 食物栄養学科	
b. 保育学科通信教育課程	
(エ) 受験対象者へのニーズ調査（アンケート）	
a. 食物栄養学科	
b. 保育学科通信教育課程	
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	14
① 既設学科の学生確保の主な取組	14
② 本学科・本課程での具体的な取組	14
③ 既設学部等（東京未来大学モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科）定員充足率 0.7 倍未満における学生の確保	15
2. 人材需要の動向等社会の要請	17
(1) 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）	17
① 食物栄養学科	17
② 保育学科通信教育課程	17
(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等をふまえたものであることの客観的な根拠	18
① 食物栄養学科	18
② 保育学科通信教育課程	20

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

(ア)食物栄養学科

本学食物栄養学科（以下、「本学科」とする）は、主に栄養学を中心的な学問分野としており、2年課程の修了で短期大学士（家政学）の学位及び栄養士免許および栄養教諭二種免許状の取得を可能としている。

入学定員の変更については、本学科で養成する人材に係る社会的・地域的な需要を踏まえるとともに、定員増にともなう教育研究活動の実施方法に留意しつつ、確実な学生確保の見通しをもって計画した。

入学定員の具体的規模については、学生募集の最大の母数となる18歳人口の推移を前提に、本学の立地する神奈川県における短期大学進学者の状況、家政系学科への進学状況、近隣の家政系学科の入学志願動向並びに定員確保の状況、本学自身の学生募集力など、本学を取り巻く様々な状況とデータを比較分析し設定しており、外部委託により実施した近隣地域の受験者層を対象とした進学ニーズ調査（アンケート）による検証を行い、確実に確保可能と見込まれる人数として20人を増員し80人とした。

なお、本学科の過去の志願者数及び入学者数については以下のとおりであり、文部科学省および、栄養士免許の授与を管轄する厚生労働省の規定により、定員通りの募集活動に努めているが、過去5年間で増加の傾向にあるといえる。特に平成24年度からは、着実に毎年志願者を増やしており、今回の定員変更は本学科の志願動向に対応したものと言える。

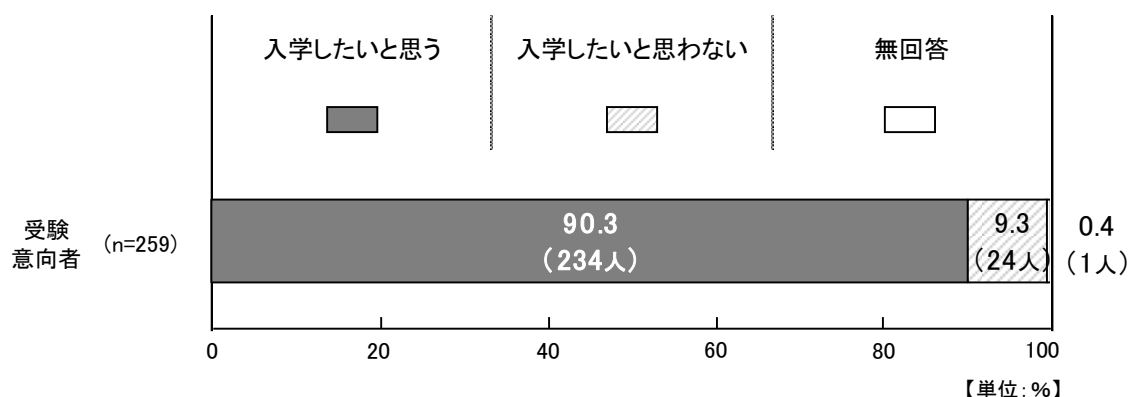
本学科志願者数と入学者数の推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
志願者	69人	62人	66人	71人	110人
入学者	60人	59人	60人	67人	71人

また、アンケートは、調査対象を本学の学生募集地域である神奈川県、静岡県において本学への進学実績を有する高等学校（神奈川県15校、静岡県6校の計21校）に在籍している女子高校生（定員変更年度に入学対象となる高校2年の女子生徒（平成27年3月：調査実施時））として実施した。調査の回答数2,323人のうち本学科を「受験したいと思う」に回答した者は259人、この入学意向を有する259人の内、「入学したいと思う」を回答した者は234人であった。これは、回答者全体の11.1%が受験意向

を示し、回答者全体の 10.1%が入学意向を示したことになる。

■食物栄養学科への入学意向



以上のことから、今回計画する本学科の定員増は、学生受け入れのうえでは必要性が高く、実際の募集広報活動において対象となる入学者については地域的に見ても、十分な確保が可能であると思料する。

(イ) 保育学科通信教育課程

本学保育学科通信教育課程（以下、「本課程」とする）は、主に教育学（幼児教育）・保育学を中心的な学問分野としており、2年課程の修了で短期大学士（保育学）の学位及び幼稚園教諭二種免許状を取得できる。また、2年課程を修了し、専攻科（1年課程）にて規定の学修を修了した者は保育士資格を取得できる。本課程を開設した平成26年度入学者は469名、平成27年度入学生は1,278名に達したため、平成27年度より、専任教員および非常勤教員含めて計108名を新たに任用し、本課程の教育体制の強化および整備に努めている。

そのような状況を踏まえ、今回の入学定員の変更については、本課程で養成する人材に係る社会的な需要を踏まえるとともに、定員増にともなう教育研究活動の実施方法に留意しつつ、確実な学生確保の見通しをもって計画した。

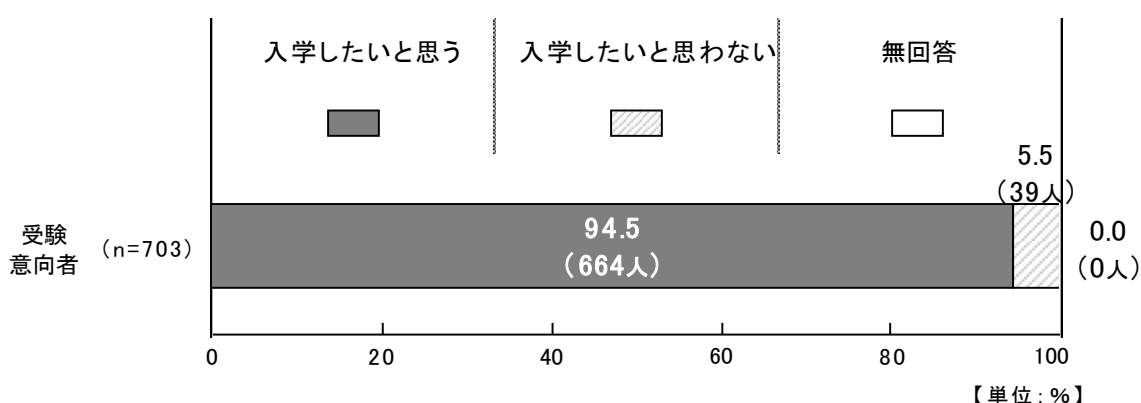
本課程の入学対象者について、対象地域は通信教育による学修のため通学課程とは異なり、近隣地域だけではなく全国幅広い地域が対象となる。

加えて、幼稚園教諭や保育士資格の取得が可能であることから、対象者は資格取得ニーズのある高校生、専門学校生、短期大学・大学の卒業者や、保育士資格が取得可能であるが幼稚園教諭免許の取得ができない専門学校生、また幼児教育者・保育者になりたい希望を持ちながら高校卒業後に就業し職業生活を送る者、子育てをしながら幼児教育者・保育者になることを考えている主婦、片方の資格を取得している現任幼稚園教諭・保育士で両資格の取得を望む社会人などが想定される。そこで、上記の資格取得ニ

ーズを踏まえて、外部機関による進学ニーズ調査（アンケート）による検証を行い、確実に確保可能と見込まれる定員数とした。

アンケートにおける調査対象は、通信制高校の生徒、指定保育士養成施設の専門学校在校生及び本学ホームページ来訪者とした。調査の回答総数 2,688 人のうち、「受験したいと思う」に回答した者は 703 人、この受験意向を有する 703 人の内、「入学したいと思う」に回答した者は 664 人であった。これは、回答者全体の 26.2%が受験意向を示し、回答者全体の 24.7%が入学意向を示したこととなる。なお、実際の募集広報活動においては、今回の調査対象よりも範囲が広がることとなる。

■保育学科 通信教育課程への入学意向



また、社会的な人材需要の動向として、子ども・子育て関連 3 法により幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していかなくてはならないなかで、改正認定こども園法に基づき、新たな幼保連携型認定こども園では、保育教諭を必置しなければならない状況がある。

保育教諭は、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が義務付けられており、今後、新たな幼保連携型認定こども園の設置が進む中で、幼稚園教諭のみ、あるいは保育士のみの資格を取得している現任の幼稚園教諭、保育士で両資格の取得を望む者の需要が増えることも予想される。

なお、私立大学通信教育協会による『入学者調査（平成 25 年度による）※正規の課程のみ』（<http://www.uce.or.jp/about/status/>平成 27 年 4 月 30 日確認）では、短期大学の通信教育への入学の動機は、[大卒資格：28.6%]、[職業資格：41.3%]、[知識技術：6.4%]、[その大学：6.3%]、[それ以外：17.4%]となっており、通信制大学、特に短期大学では資格取得（職業資格）によるキャリアアップを目指す希望者が多いといえる。本課程では、幼稚園教諭二種免許や保育士資格を取得できること、さらには幼保連携に伴い、今後は保育士資格取得者か幼稚園教諭免許を取得するまたは幼稚園教諭免許取得者が保育士資格を取得することが可能であるため、学位取得希望者だけでなく、職業資格・免許の取得を目指す者がさらに

増えるものと見込んでいる。

このように本課程における定員増の必要性は高く、実際の募集広報活動において対象となる入学者については、通信教育の特性から地域的にも属性的にも広範囲に及びかつ通信教育で2年間という短期間で資格が取得可能となることによる時間的な制約が少ないことから、アンケート以上の人数を確保する見通しも勘案でき、十分な学生確保が可能であると思料する。

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(ア)人口推移並びに短期大学進学等の状況

平成26年度の全国の18歳人口は、1,196千人と10年前の平成16年度の1,383千人から187千人減り、－13.5%となっている（出典：総務省統計局）。神奈川県においても、平成26年度の18歳人口は81,555人であり、10年前の平成16年度の87,238人から5,683人減り、－6.5%となっている（出典：神奈川県）。この比較から、全国的に18歳人口は減少しているものの、神奈川県の18歳人口の減少は比較的緩やかであることがわかる。

また、全国の高等学校卒業生数と神奈川県における高等学校卒業生数を平成16年度と平成26年度で比較すると以下の表にまとめることができる。

【全国の高等学校卒業生数、神奈川県の高等学校卒業生数】

（単位：人、%）

年	全国			神奈川県		
	卒業生数	16年比	%	卒業生数	16年比	%
平成16年	1,235,012	－	－	66,928	－	－
平成26年	1,047,392	－187,620	－15.2%	63,150	－3,778	－5.6%

（出典：学校基本調査）

この比較においても、卒業生数としては減少しているものの、神奈川県の高等学校卒業生数の減少は全国に比較して緩やかであることがわかる。

そして、全国の短期大学進学者数と神奈川県の短期大学志願者数及び進学者数を平成16年度と平成26年度で比較すると以下の表にまとめることができる。

【全国の短期大学志願者数、神奈川県短期大学志願者数】

(単位:人、%)

全体	全国			神奈川県		
年	志願者数	16年比	%	志願者数	16年比	%
平成16年	101,846	-	-	5,318	-	-
平成26年	57,097	-44,749	-43.9%	2,967	-2,351	-44.2%

(単位:人、%)

男子	全国			神奈川県		
年	志願者数	16年比	%	志願者数	16年比	%
平成16年	11,746	-	-	393	-	-
平成26年	5,631	-6,115	-52.1%	196	-197	-50.1%

(単位:人、%)

女子	全国			神奈川県		
年	志願者数	16年比	%	志願者数	16年比	%
平成16年	90,100	-	-	4,925	-	-
平成26年	51,466	-38,634	-42.9%	2,771	-2,154	-43.7%

(出典:学校基本調査)

【全国の短期大学進学者数、神奈川県短期大学進学者数】

(単位:人、%)

全体	全国			神奈川県		
年	進学者数	16年比	%	進学者数	16年比	%
平成16年	96,452	-	-	5,003	-	-
平成26年	55,924	-40,528	-42.0%	2,884	-2,119	-42.4%

(単位:人、%)

男子	全国			神奈川県		
年	進学者数	16年比	%	進学者数	16年比	%
平成16年	10,625	-	-	358	-	-
平成26年	5,349	-5,276	-49.7%	173	-185	-51.7%

(単位:人、%)

女子	全国			神奈川県		
年	進学者数	16年比	%	進学者数	16年比	%
平成16年	85,827	-	-	4,645	-	-
平成26年	50,575	-35,252	-41.1%	2,711	-1,934	-41.6%

(出典:学校基本調査)

この比較に限り、志願者数及び進学者数において、全国との比較では、神奈川県の方が割合として減少している状況にあるが、後述の通り、本学においては志願者数および進学者数が堅調であり、短期大学としては厳しい募集環境下に置かれているが、学科の特性や本学自身の募集力により学生を確保できているため定員増を計画したことを申し添える。

(イ) 学科及び課程の設置状況及び受験者、定員充足状況

a. 食物栄養学科

平成 26 年度において、全国の短期大学で家政系学科は 125 学科設置されている。過去 5 年間（平成 22 年度から 26 年度）においては、志願倍率は 1.29 倍から 1.35 倍を推移し、定員充足率は、83.46%から 87.58%を推移している。（資料①）

本学の位置する神奈川県では本学科を含め 3 校 3 学科で、平成 26 年度の入学定員は 3 学科の計で 320 人となっており、入学者は 324 人、入学定員充足率は 101%となる。さらに、家政系の学科において「栄養系」（厚生労働省の規定により定員遵守が求められている）を抽出すると本学科を含めて 2 校 2 学科の計で 180 人となり、入学者は 204 人、入学定員充足率は 113%であった。いずれにおいても、18 歳人口の減少期にあっても神奈川県の家政系の学科では安定した入学者数および定員充足の状況を維持していると言える。（資料②）

b. 保育学科通信教育課程

平成 26 年度において、全国で幼稚園教育系の通信教育課程を設置する短期大学は本課程を含めて 7 校となっている。入学定員総計 5,370 人に対して、3,947 人が入学している（出典：学校基本調査）。

日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター私学情報室が提供する「年度・地域別 定員、在籍人数一覧」では、以下の通りとなっている。

年度	地域	定員				在籍人数			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
H 22	東日本(3校)	1,500	1,550	1,300	4,350	342	260	964	1,566
	西日本(4校)	3,300	3,500	3,500	10,300	2,300	2,682	3,796	8,778
	全国(7校)	4,800	5,050	4,800	14,650	2,642	2,942	4,760	10,344
H 23	東日本(3校)	1,500	1,550	1,550	4,600	311	393	860	1,564
	西日本(4校)	3,500	3,300	3,500	10,300	2,232	3,294	3,349	8,875
	全国(7校)	5,000	4,850	5,050	14,900	2,543	3,687	4,209	10,439
H 24	東日本(3校)	1,500	1,550	1,550	4,600	370	442	946	1,758
	西日本(4校)	3,700	3,600	3,500	10,800	2,278	4,345	3,767	10,390
	全国(7校)	5,200	5,150	5,050	15,400	2,648	4,787	4,713	12,148
H 25	東日本(3校)	1,500	1,550	1,550	4,600	206	427	1,007	1,640
	西日本(4校)	3,700	3,800	3,700	11,200	4,547	5,133	4,134	13,814
	全国(7校)	5,200	5,350	5,250	15,800	4,753	5,560	5,141	15,454
H 26	東日本(4校)	1,170	1,220	1,050	3,440	651	263	942	1,856
	西日本(3校)	3,300	3,800	3,800	10,900	3,482	5,706	4,400	13,588
	全国(7校)	4,470	5,020	4,850	14,340	4,133	5,969	5,342	15,444

(出典: 日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター私学情報室)

※注 集計対象校

H22～25

東日本： 聖徳大学短期大学部 保育科（通）
東京福祉大学短期大学部 こども学科（通）
帝京短期大学 こども教育学科（通）
西日本： 近畿大学九州短期大学 保育科（通教）
大阪芸術大学短期大学部 通信教育部保育学科
近畿大学豊岡短期大学 こども学科（通信教育部）
吉備国際大学短期大学部 通信教育部幼児教育科（3年制）

H26

東日本： 聖徳大学短期大学部 保育科（通）
小田原短期大学 保育学科（通）
東京福祉大学短期大学部 こども学科（通）
帝京短期大学 こども教育学科（通）
西日本： 近畿大学九州短期大学 保育科（通教）
大阪芸術大学短期大学部 通信教育部保育学科
近畿大学豊岡短期大学 こども学科（通信教育部）

平成 26 年度を見る限り、全国的には定員充足しているものの、東日本地域で未充足、西日本で超過という不均衡の状況にある。しかし、本

課程においては、実員にあわせて定員増を行うものであり、西日本並みの充足状況を目指せるものと考えている。

(ウ) 既設学科の実績

a. 食物栄養学科

本学科の過去 5 年間の志願者数及び入学者数は以下のとおりであり、全国的にも地域的にも学生確保が困難になっている短期大学のなかにあつて、本学科への志願者は増加の傾向にあるといえる。特に平成 24 年度からは、着実に毎年志願者を増やしている。

本学科志願者数と入学者数の推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
志願者	69人	62人	66人	71人	110人
入学者	60人	59人	60人	67人	71人

b. 保育学科通信教育課程

本課程の開設から 2 年間の志願者数及び入学者数は以下のとおりである。入学定員を大きく上回る志願者を確保している。

本課程における志願者数と入学者数の推移

	平成26年度	平成27年度
志願者	471人	1,284人
入学者	469人	1,278人

(エ) 受験対象者へのニーズ調査（アンケート）

a. 食物栄養学科

本学科の収容定員増について、本学科を取り巻く高校生からの評価の確認及び本学科の定員増に関するニーズを明らかにすることを目的として、平成 27 年 3 月 1 日から 3 月 20 日にかけて、本学への進学実績にもとづき在籍者が多い神奈川県及び静岡県に所在する高等学校に在籍している女子高校生（定員変更年度に入学対象となる高校 2 年の女子生徒（平成 27 年 3 月：調査実施時））を対象とした進学意向に関するアンケートを学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。（資料③）

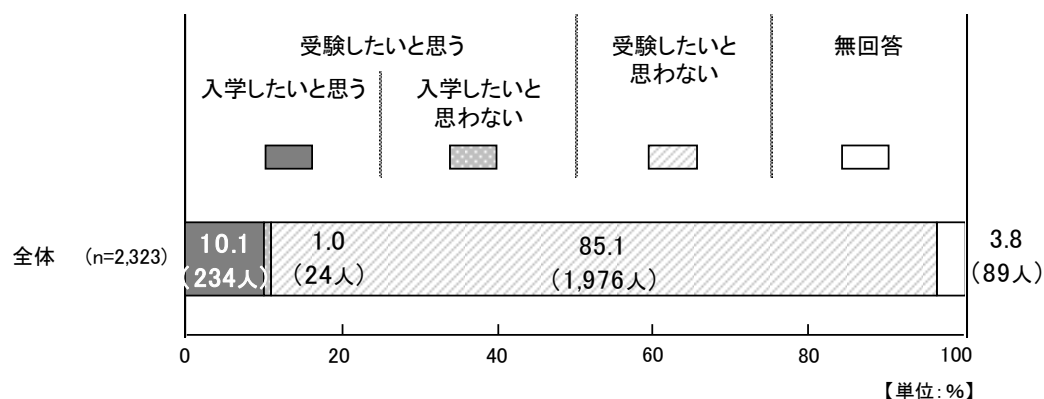
調査対象数 2,910 人に対し、回収数は 2,323 人（回収率 79.8%）であった。定員に対する学生確保の見込みの根拠を示すうえで、重要な要素

を占める『Q4. あなたは、小田原短期大学「食物栄養学科」を受験してみたいと思いますか』については、「受験したいと思う」が 259 人(11.1%)を占めている。この「受験したいと思う」と回答した 259 人のうち、本学の特色として取得可能な栄養士免許や栄養教諭二種免許に対する設問『Q3(C). 2 年間で、「栄養士免許」「栄養教諭二種免許」「社会福祉主事任用資格」、および「健康管理士一般指導員の受験資格」の取得が可能です』について、「とても魅力を感じる」と回答した者は 138 人 (53.3%)、「ある程度魅力を感じる」と回答した者は 111 人 (42.9%) であり、本学科の教育・研究分野及び資格の魅力の強さは明らかである。

また、「受験したいと思う」と回答した 259 人は、本学の特色「豊富な実験・実習」「実践力が身につくカリキュラム」「幅広い進路」においても、それぞれ、9 割以上が「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答しており、いずれも高い数値を示す結果となっている。

そして、本学科を「受験したいと思う」と回答し、「入学したいと思う」と回答した入学意向者は回答者全体の 2,323 人のうち 234 人と約 1 割であった。

■食物栄養学科への受験意向別入学意向



今回は調査期間及び対象者を限定しているが、実際の募集広報活動においてはそれらの範囲が増加することとなり、調査以上の人数を確保する見通しは十分にあると思料する。

b. 保育学科通信教育課程

本課程の収容定員増について、本学を取り巻くステークホルダーからの評価の確認及び本課程の定員増に関するニーズを明らかにすることを目的として、平成 27 年 3 月 1 日から 4 月 10 日にかけて進学意向に関するアンケートを学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。(資料④)

本課程入学の対象者について、対象地域は通信教育による学修のため通学課程とは異なり、近隣地域だけではなく全国幅広い地域が対象となる。加えて、幼稚園教諭や保育士資格の取得が可能であることから、対象者は資格取得ニーズのある高校生、専門学校生、短期大学・大学の卒業者や、保育士資格が取得可能であるが幼稚園教諭免許の取得ができない専門学校生、また幼児教育者・保育者になりたい希望を持ちながら高校卒業後に就業し職業生活を送る者、子育てをしながら幼児教育者・保育者になることを考えている主婦、片方の資格を取得している現任幼稚園教諭・保育士で両資格の取得を望む社会人などが想定される。

アンケートでは、上記の資格取得ニーズを踏まえて、通信制高校の生徒、指定保育士養成施設の専門学校在校生及び本学ホームページ来訪者を対象に実施した。具体的な調査対象者は、調査①通信制高校の生徒（定員変更年度に入学対象となる高校2年生（平成27年3月：調査実施時））、調査②専門学校在校生（指定保育士養成施設の専門学校）、調査③本学ホームページ来訪者（一般・社会人等）とした。対象者ごとの配布数と回収数は、以下のとおりである。

	調査対象者	配布数	回収数	回収率（％）
調査①	通信制高校の生徒 （調査時2年生）	1,062	720	67.8
調査②	専門学校在校生 （指定保育士養成施設の専門学校）	2,344	1,489	63.5
調査③	本学ホームページ来訪者 （一般・社会人等）	—	479	—

まず全体として、アンケートの回答者は通信制高校の生徒 720 人、専門学校在校生 1,489 人、大学ホームページ来訪者 479 人で、3 対象の合計である 2,688 人を母数として集計を行った結果、以下の内容を確認した。

ア) 興味のある学問系統

回答者に興味のある学問系統を尋ねたところ、「保育学（保育士を養成する）」が 44.6%で最も高く、「幼児教育学（幼稚園教諭を養成する）」が 38.7%、「心理学」が 37.1%で上位であった。

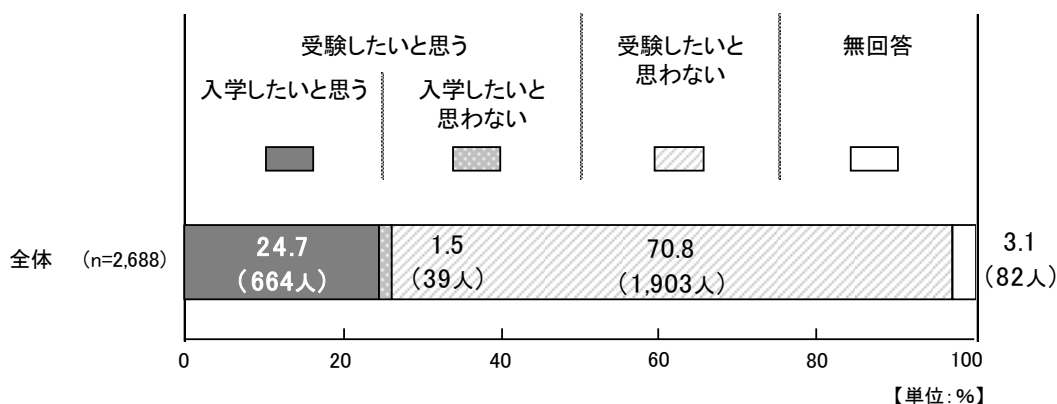
イ) 本課程の特色に対する魅力度

魅力度（「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値）は、全ての特色で 7 割を超え、最も魅力度が高いのは「卒業後は、資格を活かして保育所や施設、幼稚園へ就職するだけでなく、託児所や老人ホーム、子ども関連の会社への就職等、幅広い進路が想定されます。」で 78.4%。次いで「保育・幼児教育に関するノウハウを長年培った講師が実践的授業を展開し、より即戦力のある保育者・幼児教育者の養成を目指しています。」（76.7%）、「通信教育により、テキストを使用した在宅学習、および年 10 回の日程が設けられているスクーリング（対面授業）での履修など、仕事を持ちながらでも学修が可能です。」（75.1%）と続いた。

ウ) 本課程への受験意向と入学意向

本課程を「受験したいと思う」と答えた人は、26.2%（703 人）であり、「受験したいと思う」と答えた 703 人のうち、「入学したいと思う」と答えた人は 94.5%（664 人）であった。尚、この「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した入学意向者は全体の 24.7%を占めた。

■保育学科 通信教育課程への受験意向別入学意向【全対象】



以下に、調査①、調査②、調査③について、それぞれの集計結果について説明する。

調査①

通信制高校の生徒については、本課程と同様に高等学校で通信教育を受講し、かつ平成 28 年度に進学の可能性のある高校 2 年生（調査時）に対して調査を行った。定員に対する学生確保の見込みの根拠を示すうえで、重要な要素を占める『Q4. あなたは、小田原短期大学「保育学科 通信教育課程」（男女共学）を受験してみたいと思いますか』については、「受験したいと思う」が 58 人（8.1%）を占めている。

この「受験したいと思う」と回答した 58 人のうち、本学の特色として取得可能な幼稚園教諭二種免許状に関する設問『Q3(C).「幼稚園教諭二種免許状」「社会福祉主事任用資格」の取得が可能です。また卒業後、専攻科に進むことで「保育士資格」の取得も目指せます』について、「とても魅力を感じる」と回答した者は 37 人 (63.8%)、「ある程度魅力を感じる」と回答した者は 17 人 (29.3%) であり、本課程の教育・研究分野及び資格の魅力の強さは明らかである。

また、「本学の歴史と伝統」「実践的な授業の展開」「通信教育での学び」のいずれにおいても、約 9 割が「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答しており、いずれも高い数値を示す結果となっている。

本課程を「受験したいと思う」と回答し「入学したいと思う」と回答した者は 720 人中 54 人 (7.5%) となっている。今回は調査期間及び対象者を限定しているが、実際の募集広報活動においてはそれらの範囲が増加することとなり、調査以上の人数を確保する見通しは十分にあると思料する。

調査②

専門学校在校生については、保育士資格の取得ができる指定保育士養成施設の専門学校在校生に対して調査を行った。重要な要素を占める『Q4. あなたは、小田原短期大学「保育学科通信教育課程」(男女共学)を受験してみたいと思いますか』については、「受験したいと思う」が 444 人 (29.8%) を占めている。この「受験したいと思う」と回答した 444 人のうち、本学の特色として取得可能な幼稚園教諭二種免許状に関する設問『Q3(C).「幼稚園教諭二種免許状」「社会福祉主事任用資格」の取得が可能です。また、卒業後、専攻科に進むことで「保育士資格」の取得も目指せます』について、「とても魅力を感じる」と回答した者は 148 人 (33.3%)、「ある程度魅力を感じる」と回答した者は 269 人 (60.6%) であり、本課程の教育・研究分野及び資格の魅力の強さは明らかである。

また、「本学の歴史と伝統」「実践的な授業の展開」「通信教育での学び」のいずれにおいても、約 9 割が「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答しており、いずれも高い数値を示す結果となっている。

本課程を「受験したいと思う」と回答し「入学したいと思う」と回答した者は 1,489 人中 415 人 (27.9%) となっている。今回は調査期

間及び対象者を限定しているが、実際の募集広報活動においてはそれらの範囲が増加することとなり、調査以上の人数を確保する見通しは十分にあると思料する。

調査③

本学ホームページ来訪者については、本学ホームページに来訪した一般・社会人等に対し調査を行った。本調査の回答者の属性は以下のとおりとなっている。

ア 男女の割合は男性（35.1%）、女性（64.9%）と女性が多い。

イ 年齢層は10代から60代まで広い層に及ぶが、20代（47.6%）、30代（39.2%）、40代（10.2%）が中心となっている。

ウ 職業は、会社員が88.7%と圧倒的に多く、次いで公務員、専業主婦、パート・アルバイトの順になっている。

エ 最終学歴は、大学が最も多く、次いで専門学校・専修学校、短期大学の順になっている。

以上から、本調査の主たる回答者は、20代から40代で大学、専門学校・専修学校、短期大学卒の会社員とまとめることができる。

一般に、20代後半から40代にかけては、仕事上の必要性などから通信教育に関心を持つ者も多い。本調査の回答群は現実のニーズを予測するに適切なサンプルと考えられる。

なお、本調査において重要な要素を占める『Q4.あなたは、小田原短期大学「保育学科 通信教育課程」（男女共学）を受験してみたいと思いますか』については、「受験したいと思う」が201人（42.0%）を占めている。この「受験したいと思う」と回答した201人のうち、本学の特色として取得可能な幼稚園教諭二種免許状に関する設問

『Q3(C).「幼稚園教諭二種免許状」「社会福祉主事任用資格」の取得が可能です。また卒業後、専攻科に進むことで「保育士資格」の取得も目指せます』について、「とても魅力を感じる」と回答した者は124人（61.7%）、「ある程度魅力を感じる」と回答した者は65人（32.3%）であり、本課程の教育・研究分野及び資格の魅力の強さは明らかである。

また、「本学の歴史と伝統」「実践的な授業の展開」「通信教育での学び」のいずれにおいても、約9割が「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答しており、いずれも高い数値を示す結果となっている。

本課程を「受験したいと思う」と回答し「入学したいと思う」と回

答した者は 479 人中 195 人 (40.7%) となっている。今回は調査期間及び対象者を限定しているが、実際の募集広報活動においてはそれらの範囲が増加することとなり、調査以上の人数を確保する見通しは十分にあると思料する。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向け、本学科および本課程の教育内容を十分に説明する必要があり、主に以下のような取組を積極的に実施する。また、既設学科での取組と合わせての P R 活動を積極的に推進していく。

① 既設学科の学生確保の主な取組

- (ア) ホームページによる募集活動
- (イ) モバイルサイト、スマートフォンアプリによる募集活動
- (ウ) オープンキャンパス・学校説明会開催による募集活動
- (エ) 進学ガイダンス等への参画による募集活動
- (オ) 新聞・雑誌・地元ケーブルテレビ等の媒体への掲載広告による P R 活動
- (カ) 近隣地区の高校訪問等による進路担当教諭への募集活動

② 本学科・本課程での具体的な取組

- (ア) 各種媒体による P R 活動
 - a. 夏期以降に発行される進学情報誌への掲載。
 - b. 本課程案内 DM を本学資料請求者に対し発送。
 - c. オープンキャンパス案内を随時、資料請求者及び高等学校へ訪問し配布予定。
 - d. 本学ホームページ、本学スマートフォンアプリの充実し、本課程の P R を合わせて実施。
 - e. 本学モバイルサイトにて本課程の P R を実施。
- (イ) 高校訪問等
 - a. 9 月以降、神奈川県西湘地区高校訪問を実施。
 - b. 10 月以降、近隣都県への高校訪問を随時実施。
 - c. 教職員が、本学への資料請求者の在籍高校をはじめとする P R を行い、広く周知を図る。
 - d. 高校のほか、近郊の大学受験予備校や進学塾、専門学校に対し、本課程の紹介や P R を行い広く周知を図る。

(ウ) オープンキャンパス等

a. オープンキャンパスの開催

- ・ 9 月以降の開催を予定。
- ・ 主な内容として、本学科・本課程紹介・教育内容の説明、通信教育での学修の説明、スクーリング授業の説明、質疑応答等である。
- ・ 開催予定日（本学科...食物栄養学科）
9 月 12 日（土）13:00～、11 月 14 日（土）10:00～、1 月 16 日（土）10:00～、3 月 12 日（土）13:00～、3 月 25 日（金）13:00～
- ・ 開催予定日（本課程...保育学科通信教育課程）
9 月 12 日（土）、12 月 13 日（日）、1 月 9 日（土）、1 月 31 日（日）、2 月 7 日（日）、3 月 12 日（土）

※本学科、本課程は、教育形態が異なるため、別での開催を想定している。

- b. 希望者に対して、随時の学校見学・個別相談に対応（本学科、本課程共に個別対応に柔軟に対応する）

(エ) 進学説明会等

- a. 既設学科が参加する進学説明会にて P R を行い広く周知を図る。
- b. 高校内ガイダンスや校外イベント企画へ積極的に参加し P R し、広く周知を図る。

(オ) 関連団体などに対する周知

- a. 卒業生（同窓生）に対し、本学が発刊する短大通信（新聞）を利用し広く周知する。
- b. 実習施設、近郊の幼稚園・児童養護施設・保育所等に対して、本学科・本課程の設置を広く周知する。

③既設学部等（東京未来大学モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科）定員充足率 0.7 倍未満における学生の確保

(ア) 東京未来大学において過去 4 年間の定員充足率を勘案し、平成 28 年度より入学定員を次のように変更することを平成 27 年 2 月 16 日に開催した学校法人三幸学園の理事会にて決定した。

- a. モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科
100→60 人（△40 人）（平成 27 年 6 月届出予定）
- b. こども心理学部こども心理学科
240→280 人（40 人）

(専攻内訳) こども心理専攻 80→80 人

こども保育・教育専攻 160→200 人

これらによる収容定員 (大学全体・昼間部)

1,360→1,360 人 (変更なし)

(イ) 当該学部において平成 28 年度入学定員 60 人 (予定) を確保できるよう、より一層学生募集活動に注力する。具体的には、高等学校への渉外活動およびオープンキャンパス開催の頻度を大幅に拡大することにより、学部認知度の拡大と共に、東京未来大学と本学との入試広報上の連携を図る。

なお、認可後は上記に掲げた取組に加え、学生募集に関する告知を速やかに行う。入試内容をはじめとする募集要項を、ホームページや各種サイト、各媒体等で広く告知する。また、潜在志願者 (オープンキャンパス参加者及び資料請求者) に対して募集要項等を送付するとともに、高校進路指導教員等へ周知を行う。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

①食物栄養学科

本学科では、平成 18 年度に家政学科を食物栄養学科に改称した際に、本学科の教育目的を「人々のライフサイクルに対応した健康づくりに貢献する栄養士及び栄養教諭の養成を主たる目的とする」と定めた。ここにうたわれた栄養士および栄養教諭の養成は、女性の天賦の才能を活かしその持てる能力を広く社会において発揮させるという建学の精神（「女子を人として教育する、女性として教育する、国民として教育する」）そのものの具現化を目指すものである。

このような教育目的を達成するために、本学科では次のような技術や知識について授業を通じて修得することを目標としている。

- ・ 幅広い教養（主に教養科目によって）
- ・ 食と健康に関する専門知識（主に専門科目によって）
- ・ 食育に関する専門知識（主に教職に関する科目によって）

以上の内容を学生は 2 年間の学習を通じて、学習成果として獲得することにより、本学科の目指す、人々のライフサイクルに対応した健康づくりに貢献する栄養士及び栄養教諭が養成されている。

②保育学科通信教育課程

本課程では、幼児教育・保育の在り方についての基本的な考え方を学ぶとともに、幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材、大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学びつづけようという意志を持つ人材を養成している。今日、急速な少子化の進行、急速なスピードで進む社会の情報化とグローバル化、経済不況など様々な要因に基づいた社会環境の変化に伴い、子どもが育つ環境が変化し、近年の子育て不安や子育て中の家族の孤立、児童虐待などに現れているように、家庭や地域社会の養育機能及び教育力の低下もひきおこしている。そして、地域子育て支援への期待や幼児教育及び保育の需要の高まりという形で顕在化してきている。こうした諸問題の解決を図るためには、教育・子育て支援や幼児期の学校教育及び保育等の力を併せ持った人材を養成に対することが喫緊の課題であり、本課程においても人材養成を通じて、こうした課題解決に取り組んでいる。

このような人材を養成するために、本課程では次のような技術や知識を身に付けることを目標としている。

- ・子どもと家族を支援するために必要とされる基礎的な知識・技術と社会観、生活力、実践力を習得した人。
- ・一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な視点から理解し、家庭的な環境とかかわりを通じて教育・保育・福祉の実践ができる人。
- ・事例研究を通じて教育・保育・福祉に関する課題を分析したり、考察したりする方法を習得した人。

以上のように、本課程の主たる人材養成の目的は、子どもの人権を守り、暮らしの場面で子どもと向き合う人間性と専門性を備えた子どもの自立を支援する幼児教育者・保育者の養成であり、また、確かな教育技術を獲得し、子ども観や社会観などを身につけ、一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な視点から理解し、家庭を視野に入れた教育が展開することができる教員の養成である。

（２） 上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①食物栄養学科

近年、社会的な人材需要の動向として、地域における行政栄養士（地方公共団体において地域住民に対する栄養指導等に従事する管理栄養士等）による健康づくり及び栄養・食生活の改善に関する施策の動向が挙げられる。これは、地域保健法（昭和 22 年法律第 101 号）及び健康増進法（平成 14 年法律第 103 号）、食育基本法（平成 17 年法律第 63 号）及び高齢者の医療の確保に関する法律（昭和 57 年法律第 80 号）に基づく特定健康診査及び特定保健指導等により、保健対策において健康づくり及び栄養・食生活の改善を推進が重要となってきたことからわかる。この他にも、平成 25 年 3 月には、厚生労働省健康局長から都道府県知事および保健所設置市長に対して「地域における行政栄養士による健康づくり及び 栄養・食生活の改善について」と題した文書が発信され、「都道府県及び市町村（特別区を含む。以下同じ。）は、健康日本 21（第二次）の着実な推進に向け、栄養・食生活の改善が、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、子どもや高齢者の健康、社会環境の整備の促進に関わることから、健康づくりや栄養・食生活の改善の重要な担い手である行政栄養士が、優先されるべき施策の企画、実施及び評価を行うことができる体制を整備すること。」および「都道府県及び市町村は、行政栄養士の職務の重要性にかんがみ、行政栄養士の計画的かつ継続的な確保に努めること。」とした要請がなされていることから社会的かつ地域的な人材として、栄養士の必要性が求められているものと思料する。

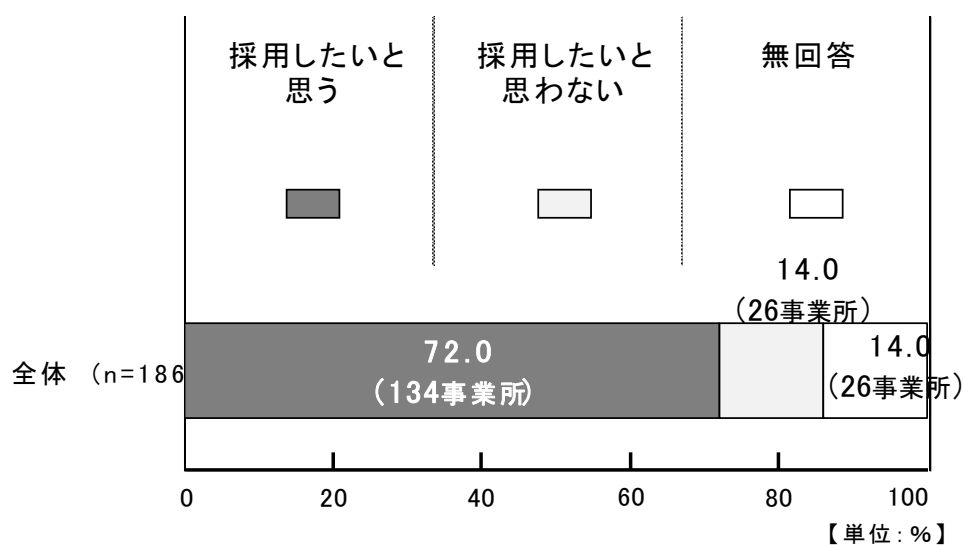
定員変更計画を策定するにあたり、地域的な人材需要の動向を把握するた

め、平成 27 年 3 月に、想定される就職先の採用担当者へのアンケートを学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。(資料⑤)

調査対象は、小田原近隣地区（神奈川県、東京都、静岡県）の保育所、福祉施設、給食産業及び病院等であり、人材需要の動向の根拠を示すうえで重要な要素を占める『Q10.貴社・貴団体（ご回答者）は、小田原短期大学「食物栄養学科」を卒業した学生について、採用したいと思われませんか』について、「採用したいと思う」が 72.0%（134 事業所） を占めた。

■食物栄養学科卒業生に対する採用意向

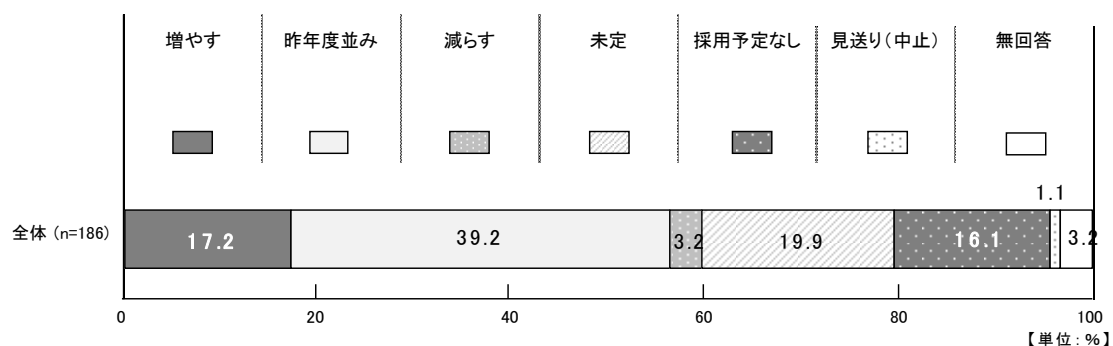
Q10. 貴社・貴団体（ご回答者）は、小田原短期大学「食物栄養学科」を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。（あてはまる番号 1 つに○）



また、『Q6.貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか』については、「増やす」が回答全体の 17.2% を占め、「昨年度並み」は 39.2%、「未定」は 19.9%であった。

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。（あてはまる番号 1 つに○）



なお、本調査において本学科の卒業生を「採用したいと思う」と回答した 134 事業所については、採用想定の人数を尋ねており（『Q11.採用を考えた場合、小田原短期大学「食物栄養学科」を卒業した学生について、毎年何名

程度の採用を想定されますか』)、その想定人数は 169 名であった。これは、変更後の定員の 2 倍に相当するものであるが、本学科の採用動向については、以下のとおり直近 3 年間で求人数は連続して増加しており、その傾向を裏付けるものと言える。

○本学科における求人件数(のべ件数)

平成23年4月	平成24年4月	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
100件	81件	81件	89件	147件

加えて、本学科における就職率について、高い水準で推移していることを以下に示す。

○本学科における就職率(就職者÷就職希望者)

	平成23年 3月卒業	平成24年 3月卒業	平成25年 3月卒業	平成26年 3月卒業	平成27年 3月卒業
本学科	89.1%	97.6%	98.1%	94.0%	100%

更に、隣接する地域に立地する「相模女子大学短期大学部食物栄養学科」では、平成 26 年 3 月卒業者の就職率は、97.8%であり、「日本大学短期大学部食物栄養学科」の平成 26 年 3 月卒業者の就職率は、86.0%となっており、本学科と同様に高い水準にあることがわかる（いずれも当該大学ホームページより引用）。

前述のような本学の周辺地域に限られたアンケートにおいても、本学科で学んだ人材への需要は高く、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえても、今回の本学科における定員増の必要性は高いものであると思料され、卒業後の進路の見通しも十分であると見込まれる。

②保育学科通信教育課程

社会的な人材需要の動向として、子ども・子育て関連 3 法により幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していかなくてはならないなかで、改正認定こども園法に基づき、新たな幼保連携型認定こども園では、保育教諭を必置しなければならない状況がある。保育教諭は、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が義務付けられており、今後、新たな幼保連携型認定こども園の設置が進む中で、幼稚園教諭のみ、あるいは保育士のみの資格を取得している現任の幼稚園教諭、保育士で両資格の取得を望む

者の需要が増えることも予想される。

文部科学省・厚生労働省幼保連携推進室が平成 26 年 5 月 7 日は発表したプレスリリース「認定こども園の平成 26 年 4 月 1 日現在の認定件数について」(URL <http://www.youho.go.jp/press140507.html> 平成 27 年 5 月 1 日確認)では、認定件数は 1,359 件となり前年(平成 25 年)と比較し、260 件、3 年前(平成 23 年)と比較しても、597 件(約 1.8 倍)と増加している。

また、別の側面からとらえると、待機児童の状況からも必要性がうかがえる。全国規模でとらえると、平成 26 年 10 月、厚生労働省発表の認可保育所入所待機児童数は 43,184 人、同年 4 月の待機児童数 21,371 人から 21,813 人の増加であり、全国各自治体でも認可保育所を増やしてはいるものの、長引く不況の折、共働きの世帯は増え、働きたいが預ける保育所がない、または、やむなく無認可保育所に預けているという待機児童数はまだまだ増加している。

子育て支援サービスへのニーズが高まるなかで、保育所は年々施設数を増加しており、平成 26 年 9 月に厚生労働省が発表した資料では、平成 26 年の時点で、保育所は 24,425 か所、全体の定員数は 2,335,724 人となり、2 年前にあたる平成 24 年との比較においても、施設数で 534 か所、定員数で 95,546 人増加している。これは、子どもが生まれたあとも働き続ける家庭が増えたことや、保育所の施設数や定員数が拡大したため、「自分たちも利用できるだろう」と考える家庭が増えたことにより、待機児童が減らない状況となっている。そのような状況から、国や自治体は多様な保育サービスを充実させるため認可保育所だけでなく、幼稚園での預かり保育や、認定こども園を普及させること、「家庭的保育」(自治体から認定を受けた家庭的保育者が自宅などで少数の子どもを保育するサービス)や「グループ型小規模保育事業」(複数の保育ママが同じ場所でグループを組んで保育をするサービス)を広めること、病院や一般企業に設けられる事業所内預かり施設を強化すること、認可保育所の株式会社参入の促進など、様々な子育て支援サービスも拡大してきている。

このように、子育て支援のニーズは年々高まっており、乳幼児や子育てに関する質の高い知識や技術を持つ幼稚園教諭及び保育士の養成や幼稚園教諭と保育士の両資格を持つ、より専門性の高い人材を養成し現場に送り出すことが必要と考えられる。

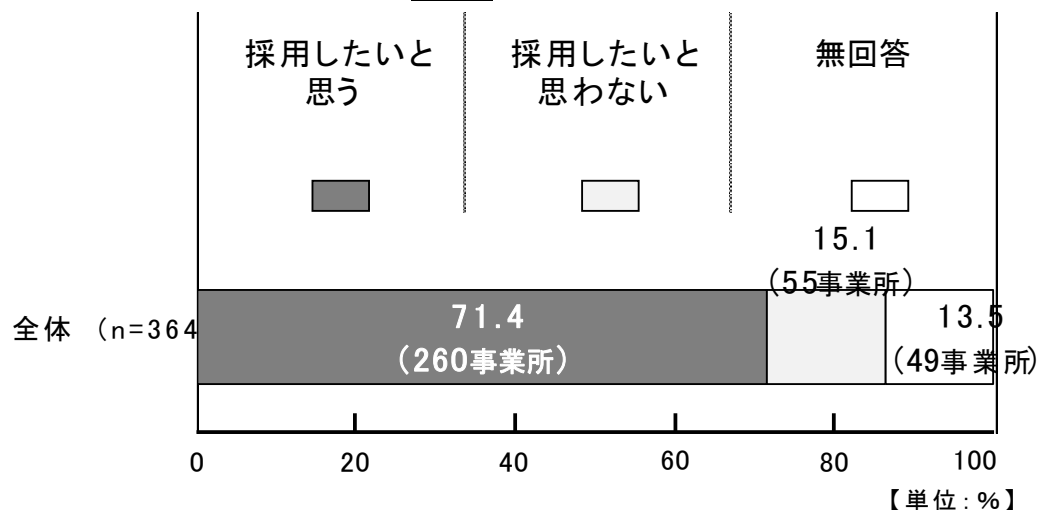
定員変更計画を策定するにあたり、地域的な人材需要の動向を把握するため、平成 27 年 3 月に、想定される就職先の採用担当者へのアンケートを学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。(資料⑥)

調査対象は、主に小田原近隣地区(神奈川県、東京都、静岡県)の幼稚園

及び児童養護施設等であり、人材需要の動向の根拠を示すうえで重要な要素を占める『Q10.貴社・貴団体（ご回答者）は、小田原短期大学「保育学科 通信教育課程」を卒業した学生について、採用したいと思われますか』について、「採用したいと思う」が71.4%（260事業所）を占めた。

■「保育学科 通信教育課程」卒業生に対する採用意向

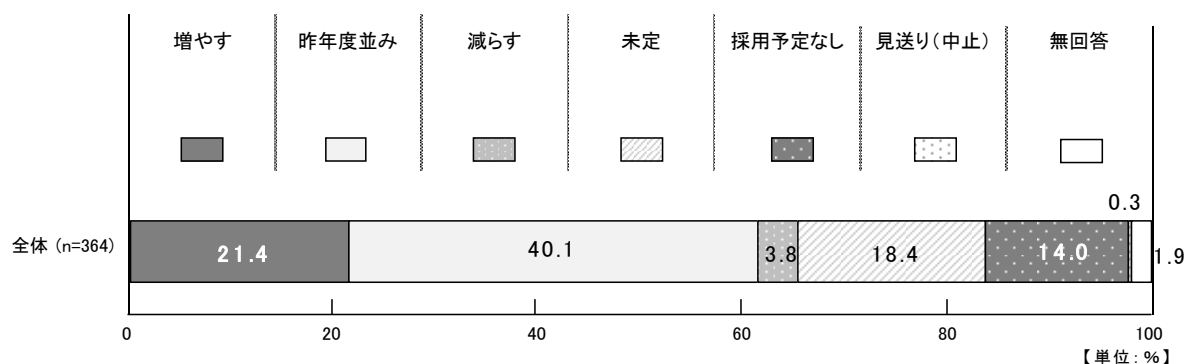
Q10. 貴社・貴団体（ご回答者）は、小田原短期大学「保育学科 通信教育課程」を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（あてはまる番号1つに○）



また、『Q6.貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか』については、「増やす」が回答全体の21.4%を占めた。なお、「昨年度並み」は40.1%、「未定」は18.4%であった。

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。（あてはまる番号1つに○）



なお、本調査において本課程の卒業生を「採用したいと思う」と回答した260事業所については、採用想定の人数を尋ねており（『Q11.採用を考える場合、小田原短期大学「保育学科 通信教育課程」を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか』）、その想定人数は322名であった。このような本学の周辺地域に限られたアンケートにおいても、本学で学んだ人材への需要は高いという結果が得られた。

このように本アンケートは地域を限定して実施したが、上述したとおり近

年待機児童の解消のため幼児教育・保育関連施設は増加の傾向であり、今後
も全国的に幼稚園教諭等の需要増加が見込まれ、卒業後の進路においても求
人が確保できると考えられる。

なお、採用動向では、本学の保育学科通学課程においても以下のとおり直
近 5 年間での求人数は連続して増加している(本課程は平成 28 年 3 月に第 1
期生が卒業するため就職内定実績は無い)。

○保育学科通学課程における求人件数(のべ件数)

平成23年4月	平成24年4月	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
452件	468件	533件	675件	997件

加えて、保育学科通学課程および近隣に所在する他の短期大学（保育系学
科）における就職率について、高い水準で推移していることがわかる。

○保育学科通学課程および近隣に所在する他の短期大学（保育系学科）にお ける就職率(就職者÷就職希望者)

	平成23年 3月卒業	平成24年 3月卒業	平成25年 3月卒業	平成26年 3月卒業	平成27年 3月卒業
保育学科 通学課程	91.4%	98.0%	100%	100%	100%
聖セシリア 短期大学 幼児教育学科	98.3%	100%	98.3%	96.4%	未掲載
横浜女子 短期大学 保育科	未掲載	未掲載	100%	100%	100%

※各大学ホームページより引用（掲載が確認できない場合は、「未掲載」と記述）

以上のことから、本学で学んだ人材への需要は高く、社会的、地域的な人
材需要の動向等を踏まえると、今回の本課程における定員増の必要性は高い
ものであると思料する。なお、すでに述べたように本課程は、幼稚園教諭の
み、あるいは保育士のための資格を取得している現任の幼稚園教諭や保育士な
どを含め、すでに職業に従事している者を受け入れることとしており、すべ
ての学生が卒業後、新たに職に就くと限らない特殊性を有している。

最後に、本学が立地する小田原市からも（資料⑦）の通り「小田原短期大学の食物栄養学科及び保育学科通信教育課程の定員増について（要望）」として、小田原市長より要望書を頂戴している。本学と小田原市の連携により、保育・子育て・食育などの専門教育を展開し地域においても子育て支援センターの運営や、教育委員会への参画など、本学は多くの場面で重要な役割を担っている。本学の専門教育を地方創生の一環として、小田原市とその隣接地域のまちづくりに役立つことを目指すためにも、本学としても定員増の実現を強く望むものである。

＜別添資料＞

資料① 日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 発行
平成 26（2014）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向

資料② 家政系短期大学（神奈川県）における入学者数（平成 26 年度）

資料③ 『小田原短期大学「食物栄養学科」収容定員増に関するニーズ調査【高校生対象】結果報告書』及びリーフレット

資料④ 『小田原短期大学「保育学科 通信教育課程」収容定員増に関するニーズ調査【通信高校の生徒・専門学校在校生・一般・社会人対象】結果報告書』及びリーフレット

資料⑤ 『小田原短期大学「食物栄養学科」収容定員増に関するニーズ調査【事業所対象】結果報告書』及びリーフレット

資料⑥ 『小田原短期大学「保育学科 通信教育課程」収容定員増に関するニーズ調査【事業所対象】結果報告書』及びリーフレット

資料⑦ 要望書「小田原短期大学の食物栄養学科及び保育学科通信教育課程の定員増について（要望）」

資料①

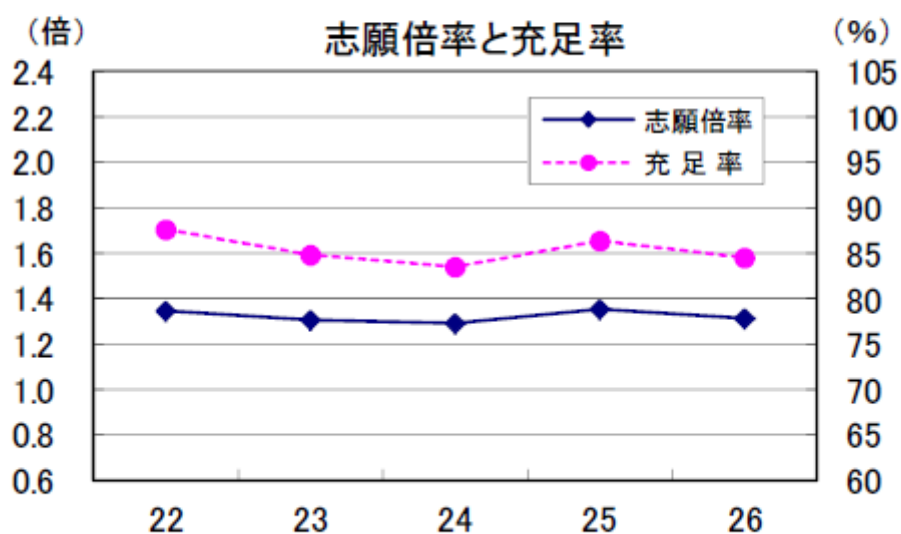
日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 発行
平成 26（2014）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向

V 区分ごとの動向（短期大学）

4. 学科系統別の動向（短期大学） 掲載 44 ページより転載

家政系

年 度	22	23	24	25	26
学 科 数	142	135	133	130	125
志願倍率	1.35	1.31	1.29	1.35	1.31
充 足 率	87.58	84.78	83.46	86.34	84.48



資料②

家政系短期大学（神奈川県）における入学者数等（平成26年度）

短期大学名	学科名	入学定員	入学者数	入学定員充足率
小田原短期大学	食物栄養学科	60 人	67 人	111%
湘北短期大学	生活プロデュース学科	140 人	120 人	85.7%
相模女子大学 短期大学部	食物栄養学科	120 人	137 人	114%
計		320 人	324 人	101%

上記における「栄養系（食物栄養学科）」のみを抽出

短期大学名	学科名	入学定員	入学者数	入学定員充足率
小田原短期大学	食物栄養学科	60 人	67 人	111%
相模女子大学 短期大学部	食物栄養学科	120 人	137 人	114%
計		180 人	204 人	113%

小田原短期大学「食物栄養学科」
収容定員増に関するニーズ調査【高校生対象】
結果報告書

平成27年5月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2016年4月収容定員の増加を計画中の小田原短期大学「食物栄養学科」に関して、
高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

調査対象		高校2年生女子
調査エリア		神奈川県、静岡県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校)	2,910 (21校)
	回収数 (回収率)	2,323 (79.8%)
調査時期		2015年3月1日(日) ～ 2015年3月20日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

・属性 (高校所在地／高校種別／所属クラス)
・高校卒業後の希望進路
・興味のある学問系統
・食物栄養学科の特色に対する魅力度
・食物栄養学科への受験意向
・食物栄養学科への入学意向

調査結果まとめ

調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、小田原短期大学「食物栄養学科」に対する需要を確認するための調査として設計したため、小田原短期大学の主な学生募集エリアである神奈川県、静岡県に所在する高校の高校2年生(定員変更年度に入学対象の学年)に調査を実施した。

- 本調査の回答者は2,323人。
- 回答者の在籍高校所在地は「神奈川県」が75.4%、「静岡県」が24.6%。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が63.0%、「私立」が37.0%。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が45.9%、「その他」が20.1%、「コース選択はない」が15.0%、「理系クラス(理系コース)」が13.1%。

高校卒業後の希望進路

- 回答者に高校卒業後の希望進路を尋ねたところ、「短期大学に進学」は21.4%、「専門学校・専修学校に進学」は41.2%、「大学に進学」は37.5%。

興味のある学問系統

- 回答者に興味のある学問系統を尋ねたところ、「保育学(保育士を養成する)」が21.2%、「芸術学(美術・デザイン、音楽などを含む)」が19.5%で高いほか、「生活科学(食物・栄養学、被服学、住居学などを含む)」も15.8%で上位。

調査結果まとめ

食物栄養学科の特色に対する魅力度

- ・食物栄養学科の特色に対する魅力度(「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値)は、全ての特色で6割を超える。
- ・最も魅力度が高いのは「卒業後は、『給食産業』『病院』『保育所』『福祉施設』等へ栄養士として就職するだけでなく、一般企業への就職等、幅広い進路が想定されます。」で70.9%。次いで「2年間で、『栄養士免許』『栄養教諭二種免許』『社会福祉主事任用資格』、および『健康管理士一般指導員の受験資格』の取得が可能です。」(69.5%)、「栄養・食品・調理・給食に関する豊富な実験・実習を通して、食と健康のスペシャリストを育成します。」(67.7%)と続く。

食物栄養学科への受験意向・入学意向

- ・食物栄養学科を「受験したいと思う」と答えた人は、11.1%(259人)である。
- ・食物栄養学科を「受験したいと思う」と答えた259人のうち、「入学したいと思う」と答えた人は90.3%(234人)であり、予定されている入学定員80人の3倍近くなっている。尚、この「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人は全体の10.1%を占める。

受験意向別入学意向 属性別傾向

◇高校所在地別

- ・食物栄養学科を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた人(以降下線部を本頁内では「入学意向者」と表す)は地元「神奈川県」で10.4%(182人)。

◇高校卒業後の希望進路別

- ・現時点で「短期大学」の進学を考えている人のうち食物栄養学科の入学意向者は17.7%(88人)。

◇興味のある学問系統別

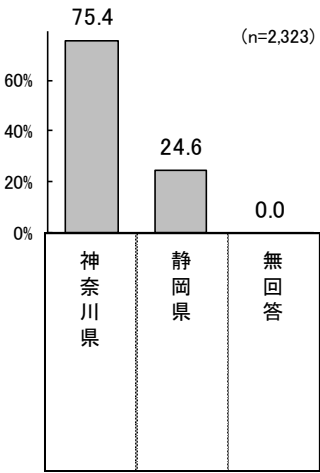
- ・「生活科学」に興味を持っている人のうち、食物栄養学科の入学意向者は35.2%(129人)。

調查結果

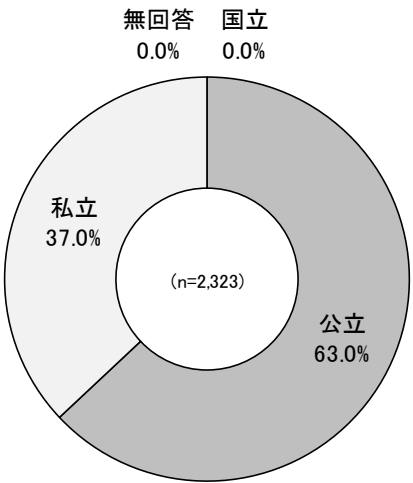


属性(高校所在地／高校種別／所属クラス)

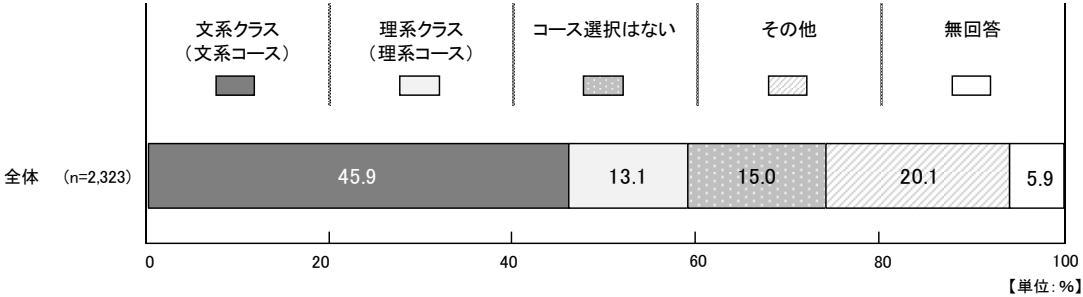
■ 高校所在地



■ 高校種別



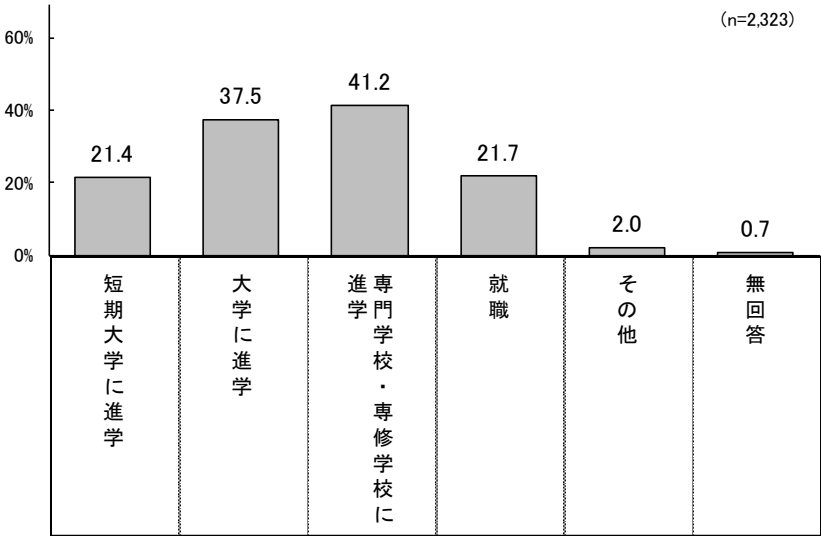
■ 所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

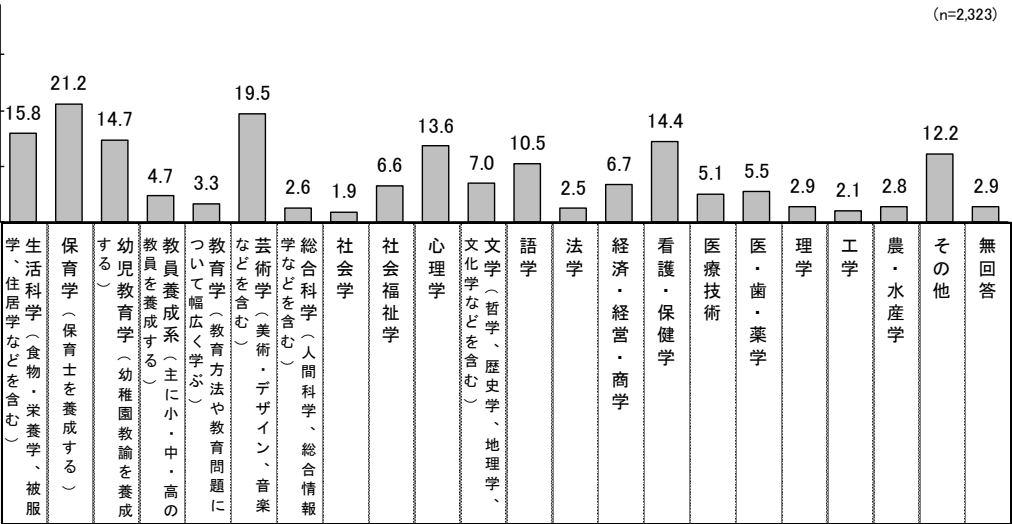
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

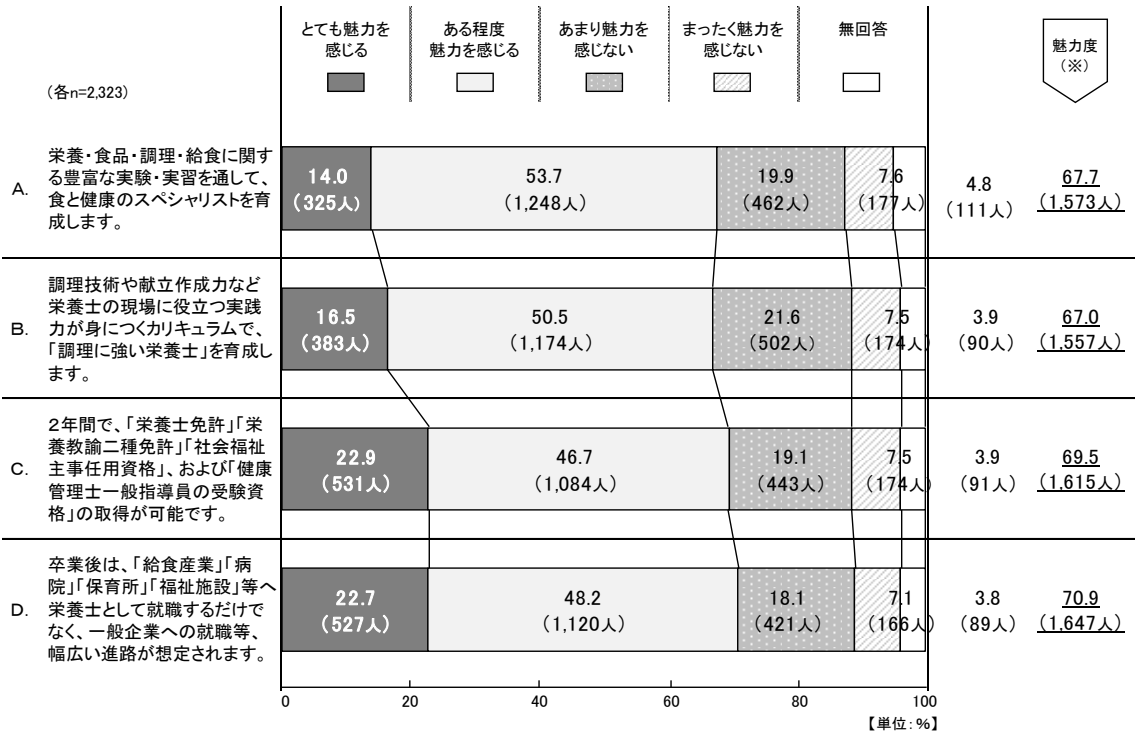
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



食物栄養学科の特色に対する魅力度

■食物栄養学科の特色に対する魅力度

Q3. 小田原短期大学「食物栄養学科」には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

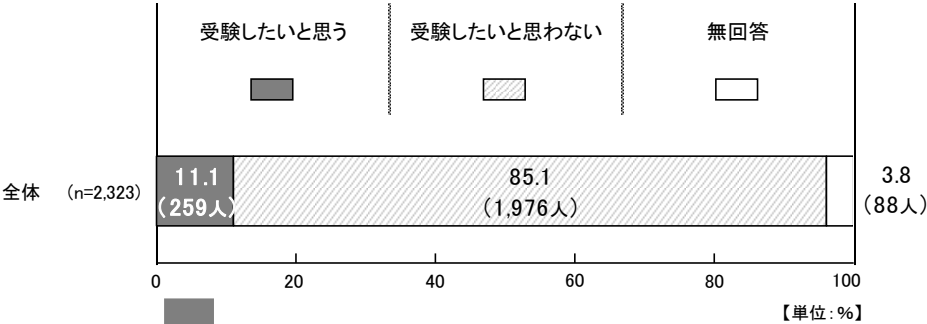


※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

食物栄養学科への受験意向／入学意向

■食物栄養学科への受験意向

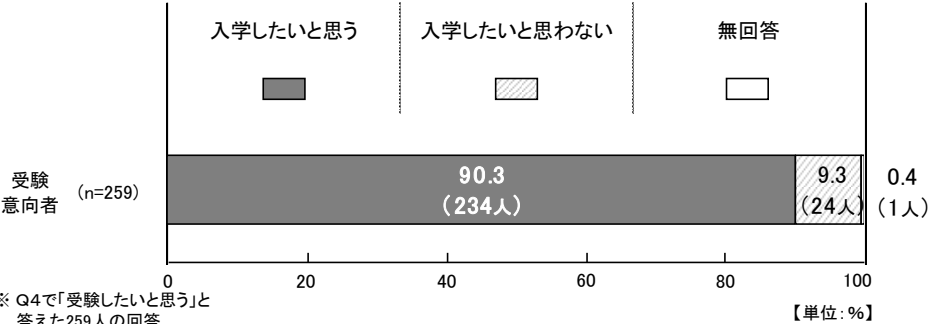
Q4. あなたは、小田原短期大学「食物栄養学科」を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた259人のみ抽出

■食物栄養学科への入学意向

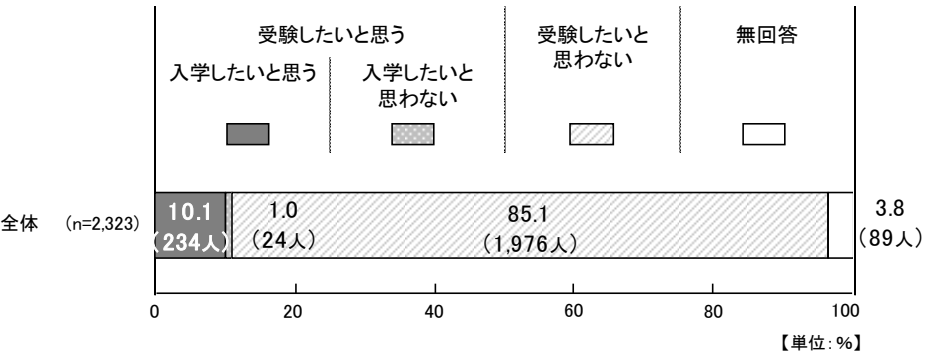
Q5. あなたは、小田原短期大学「食物栄養学科」に合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



※ Q4で「受験したいと思う」と答えた259人の回答

「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

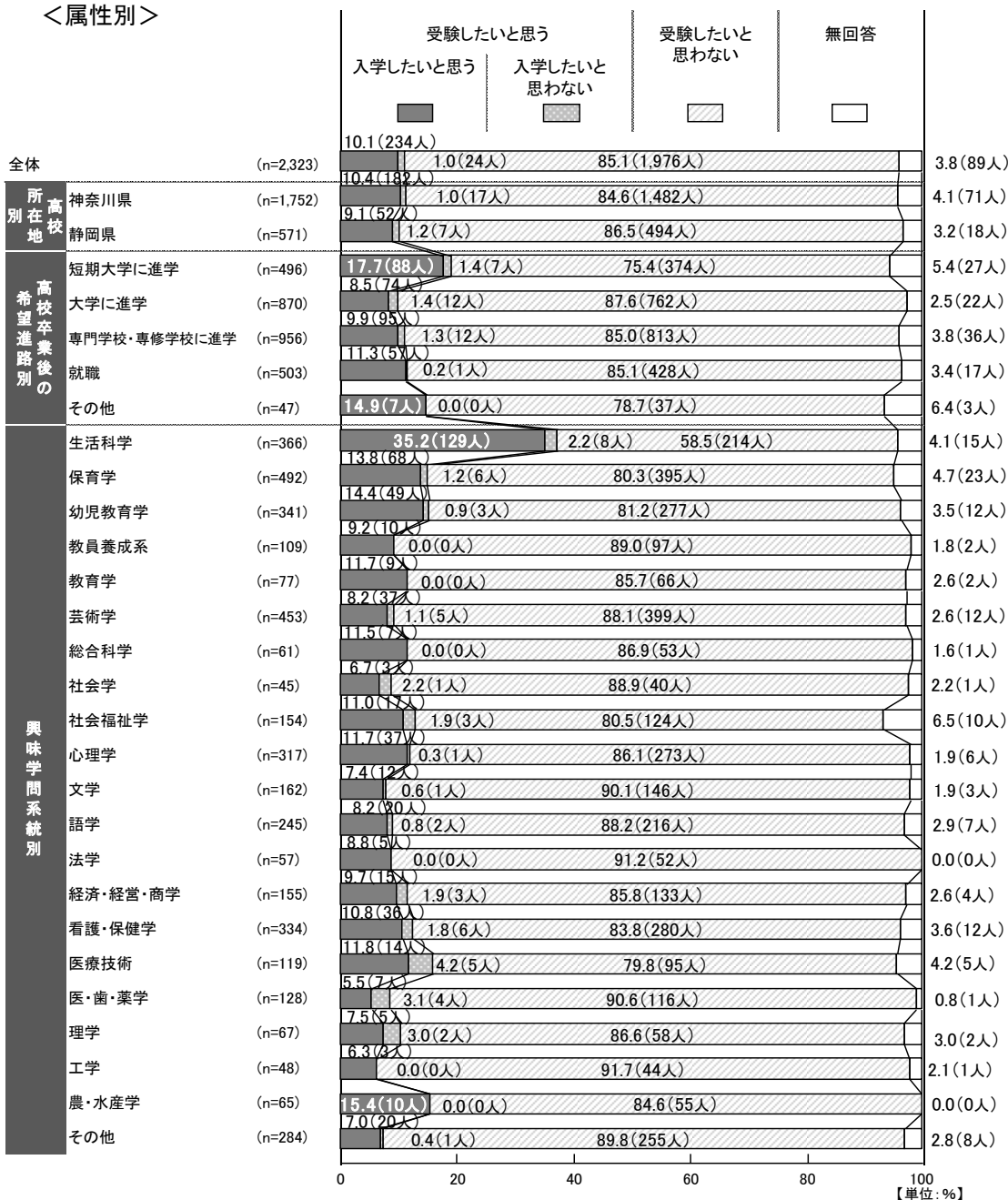
■食物栄養学科への受験意向別入学意向



食物栄養学科への受験意向／入学意向＜属性別＞

■食物栄養学科への受験意向別入学意向

＜属性別＞



卷末資料 調查票



調査票

小田原短期大学 食物栄養学科
に関するアンケート

小田原短期大学では、2016年(平成28年)4月より、「食物栄養学科」の入学定員を増やす計画を立てています。このアンケートは、2016年(平成28年)3月卒業予定の高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、短期大学や大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、小田原短期大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「食物栄養学科」に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

このアンケートは2016年(平成28年)3月卒業予定の 高校2年生 の 女性 を対象としています。

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 国立・公立・私立（← <u>1つに〇</u> ） [] 高等学校
所属クラス <u>(1つに〇)</u>	1. 文系クラス（文系コース） 3. コース選択はない 2. 理系クラス（理系コース） 4. その他(具体的に：)

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。

以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

1. 短期大学に進学 3. 専門学校・専修学校に進学 5. その他()
2. 大学に進学 4. 就職

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。

以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

- | | | |
|-------------------------------|------------------------------|------------|
| 1. 生活科学 (食物・栄養学、被服学、住居学などを含む) | 8. 社会学 | 15. 看護・保健学 |
| 2. 保育学 (保育士を養成する) | 9. 社会福祉学 | 16. 医療技術 |
| 3. 幼児教育学 (幼稚園教諭を養成する) | 10. 心理学 | 17. 医・歯・薬学 |
| 4. 教員養成系 (主に小・中・高の教員を養成する) | 11. 文学 (哲学、歴史学、地理学、文化学などを含む) | 18. 理学 |
| 5. 教育学 (教育方法や教育問題について幅広く学ぶ) | 12. 語学 | 19. 工学 |
| 6. 芸術学 (美術・デザイン、音楽などを含む) | 13. 法学 | 20. 農・水産学 |
| 7. 総合科学 (人間科学、総合情報学などを含む) | 14. 経済・経営・商学 | 21. その他() |

裏面へ →

調査票

◆小田原短期大学「食物栄養学科」についてお聞きます。

小田原短期大学では、現在高校2年生のみなさんが短期大学や大学に入学する2016年(平成28年)4月に、「食物栄養学科」の入学定員を増やすことを計画しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 小田原短期大学「食物栄養学科」には、以下のような特色があります。

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	〇〇という力が身につきます。	→ 1	2	3	4
A.	栄養・食品・調理・給食に関する豊富な実験・実習を通して、食と健康のスペシャリストを育成します。	→ 1	2	3	4
B.	調理技術や献立作成力など栄養士の現場に役立つ実践力が身につくカリキュラムで、「調理に強い栄養士」を育成します。	→ 1	2	3	4
C.	2年間で、「栄養士免許」「栄養教諭二種免許」「社会福祉主事任用資格」、および「健康管理士一般指導員の受験資格」の取得が可能です。	→ 1	2	3	4
D.	卒業後は、「給食産業」「病院」「保育所」「福祉施設」等へ栄養士として就職するだけでなく、一般企業への就職等、幅広い進路が想定されます。	→ 1	2	3	4

Q4. あなたは、小田原短期大学「食物栄養学科」を受験してみたいと思いますか。

あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 受験したいと思う 2. 受験したくない

Q5. あなたは、小田原短期大学「食物栄養学科」に合格したら、入学したいと思いますか。

あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 入学したいと思う 2. 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

小田原短期大学 食物栄養学科の概要

小田原短期大学は、社会により多くの優秀な人材を輩出し社会に貢献するため、また地域のニーズに応えるために、2016年4月から食物栄養学科の入学定員を現在の60名から80名に増やすことを検討しています。このアンケートは、定員増加の基礎資料にするため、皆様にご協力をお願いしています。アンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。

小田原短期大学 **食物栄養学科** 定員女子80名（60名から20名分増やす計画です） 修業年限2年
 <取得可能資格> 栄養士、栄養教諭2種免許状、健康管理士一般指導員
 <取得学位> 短期大学士（家政学）
 <学費> 1,348,300円 {入学金340,000円/授業料750,000円/施設設備費240,000円/実験実習費18,300円（2014年度実績）}

保育学科 定員女子140名 修業年限2年
 <取得可能資格> 幼稚園教諭2種免許状、保育士資格
 <取得学位> 短期大学士（保育学）
 <学費> 1,350,000円 {入学金340,000円/授業料770,000円（実習費含む）/施設設備費240,000円（2014年度実績）}

●食物栄養学科の理念と特色

本学科では“調理に強い栄養士”の育成を目指し、豊富な調理実習を取り入れた独自カリキュラムのもと学んでいきます。また栄養士に必要なフードサービス能力育成のために、「ゼミナール」や「総合調理実習」などの授業を通して表現力・創造力・テーブルセンスが磨かれます。



●開設予定科目

栄養学、食品学、基礎調理実習、給食計画演習、栄養指導、公衆衛生学概論、ライフステージ栄養学 等

●食物栄養学科 養成する人物像

＊食の専門知識・技能を活用し、地域・社会の人々の健康増進に貢献できる人
 ＊食を中心とした様々な情報に関心を持ち、あらゆる年齢層の人々に食育活動ができる人



●食物栄養学科 卒業後の活躍フィールド

栄養士・栄養教諭として活躍！！
 給食産業、病院、保育所、小学校、中学校、社会福祉施設、食品メーカー、食品関連企業、サービス業 など

【参考】近隣私立大学の学納金 （2015年2月現在の各大学のホームページより引用）

地域	大学・学部名	学科名	学費 (入学金+授業料+施設設備費+実験実習費)
神奈川県	相模女子大学短期大学部	食物栄養学科	1,358,000円
静岡県	日本大学短期大学部	食物栄養学科	1,260,000円

●設置場所

【住所】神奈川県小田原市城山4-5-1

【アクセス】JR・小田急「小田原駅」徒歩15分

